

「重複障害者等の教育課程の取扱い」の規定を踏まえた 各教科の目標及び内容の連続性についての検討

平成28年5月18日
教育課程部会
特別支援教育部会
第8回 資料3-1

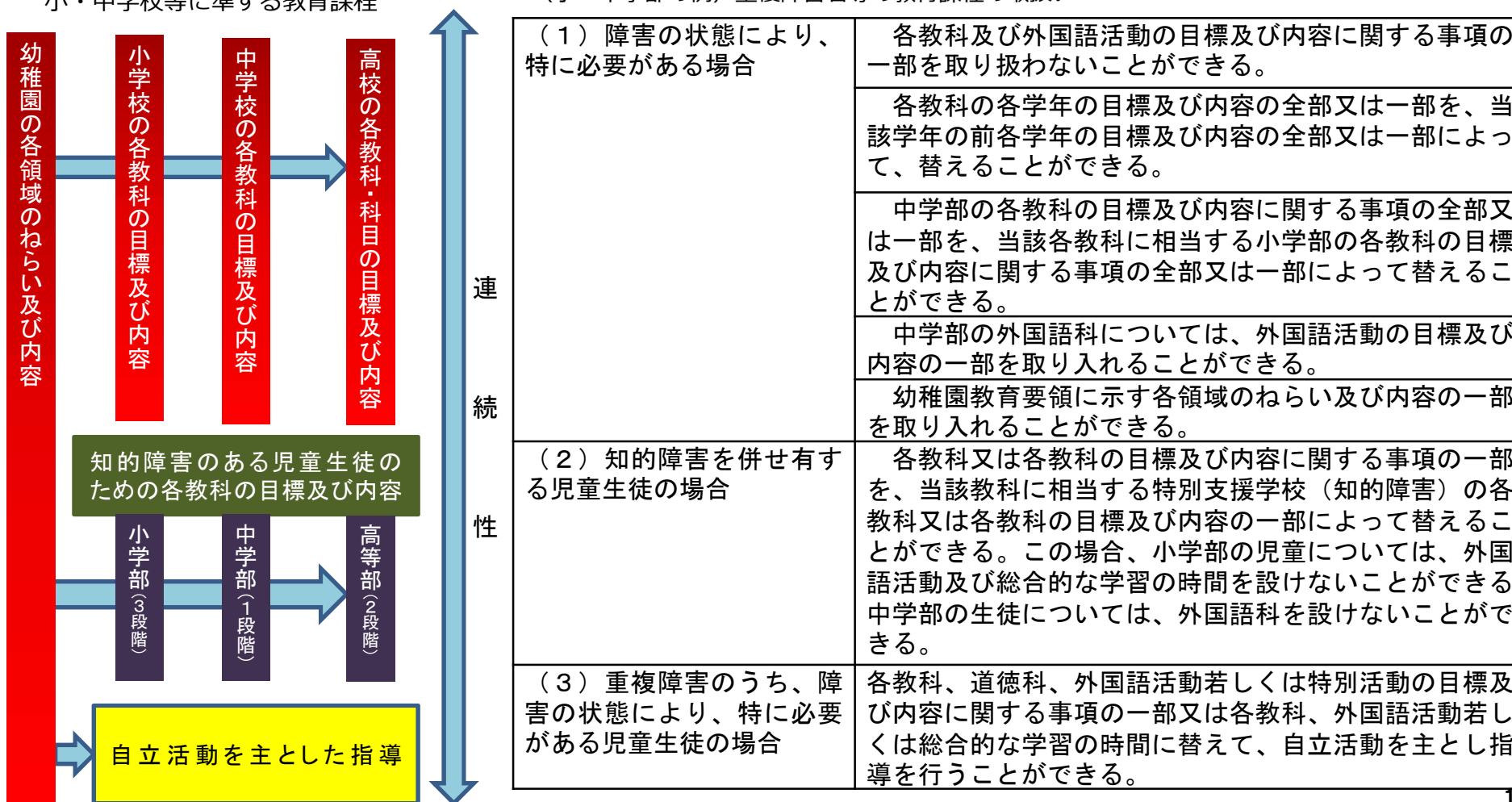
平成28年4月13日
教育課程部会
特別支援教育部会
(第7回) 提案

●現場の教員が実態把握や目標設定に活用できる教科の目標及び内容のつながりを具体的に示すことが重要ではないか。

- (1) 小学校等の教科と知的障害のある児童生徒のための教科の目標の系統性を連続性のあるものとして示すことが必要
- (2) 発達の初期段階にある児童生徒も含めて教科の目標の系統性をより細かく具体的に示すことが重要
- (3) その上で、重複障害である児童生徒の教科等の目標・内容を「替える」際の手続きを具体的に示すことが必要

小・中学校等に準ずる教育課程

(小・中学部の例) 重複障害者等の教育課程の取扱い



重複障害者等の教育課程の取扱いについて

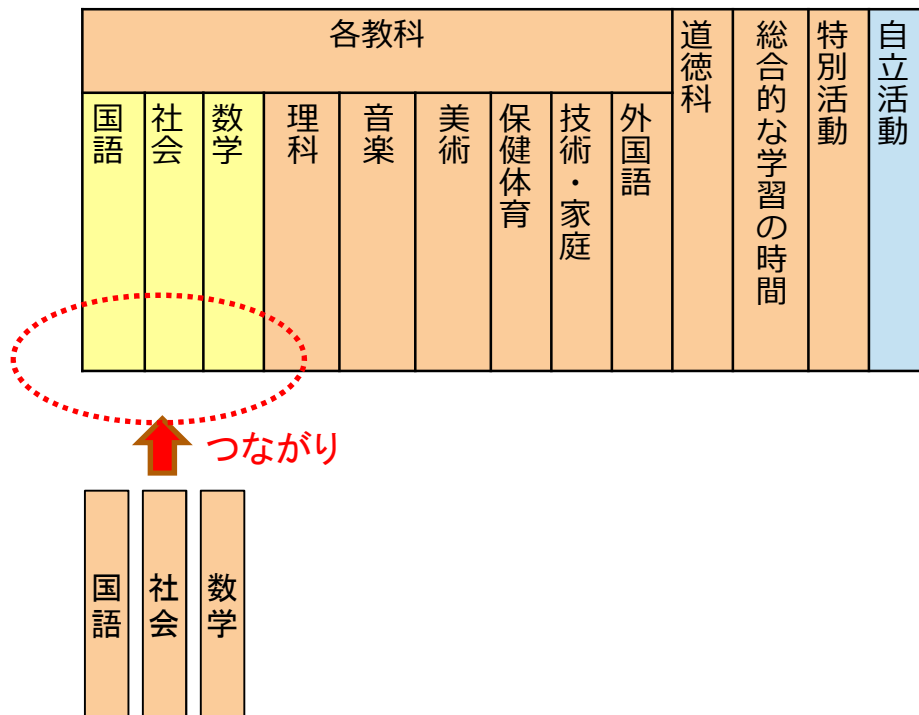
(例) 重複障害者の場合

[知的障害を併せ有する児童生徒の場合]

2-(1) 「各教科」又は「各教科の目標及び内容に関する事項の一部」を、知的障害を有する児童生徒のための「教科」及び「教科の目標及び内容の一部」に替えることができる

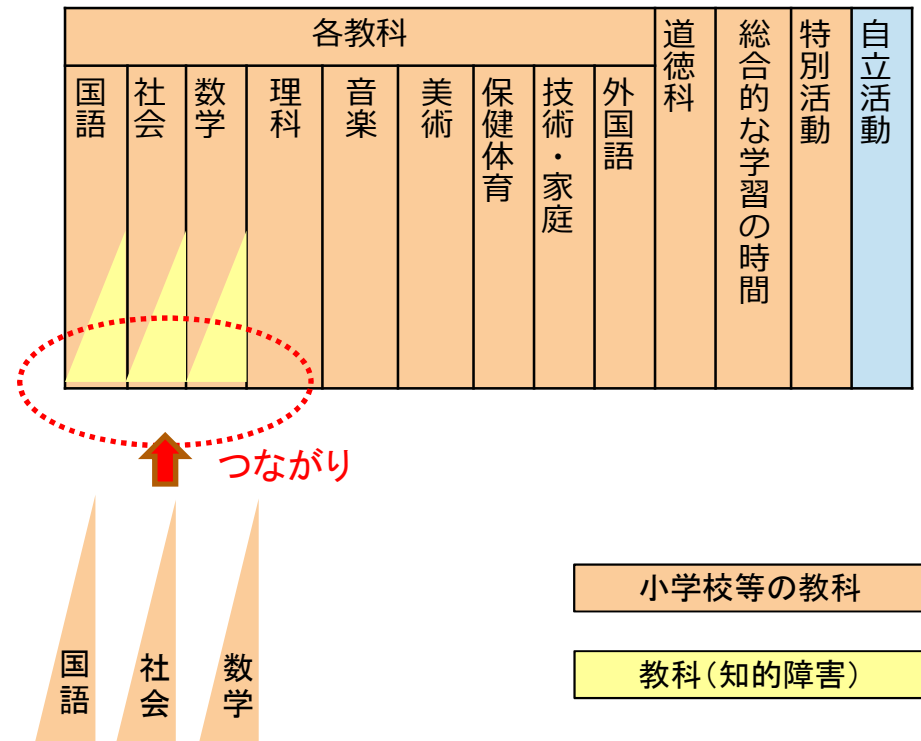
① 「各教科」を替える場合

(例) ■ 中学部（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の教育課程



② 「各教科の目標、内容に関する事項の一部」を替える場合

(例) ■ 中学部（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の教育課程



重複障害者等の教育課程の取扱いについて

[重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある児童生徒の場合]

2-(2) 「各教科、道徳、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部」又は「各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間」に替えて、**自立活動を主として指導**を行うことができる

(例) ■ 小学部（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の教育課程

各教科									道徳科 の時間	総合的な学習 の時間	特別活動	自立活動
国語	算数	生活	社会	理科	家庭	音楽	図画 工作	体育				

・小学部に外国語活動が導入されたことに伴い、各教科等と同様に外国語活動についても一部又は全部替えることができる。



各教科									道徳科	特別活動	自立活動
国語	算数	生活				音楽	図工	体育			
自立活動											

・各教科、道徳、外国語活動、特別活動の目標及び内容に関する事項の一部に替えて、自立活動の指導を主として行うことができる。

つながり

道徳科	特別活動	自立活動									
-----	------	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

・各教科や外国語活動の目標及び内容の全部又は総合的な学習の時間に替えて、主として自立活動の指導を行うことができる。
 ・なお、道徳及び特別活動については、その目標及び内容の全部を替えることができないことに留意する必要がある。

現行の教科における「目標（ねらい）」 の示し方から見た現状と課題

教科の目標の比較

	(例) 算数 ／数学	小学校	中学校	高等学校	学習評価の観点
小学校等の教科	目標	<p>算数的活動を通して、</p> <p>数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、</p> <p>日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、</p> <p>算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>数学的活動を通して、</p> <p>数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、</p> <p>数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、</p> <p>数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。</p>	<p>数学的活動を通して、</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、</p> <p>事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、</p> <p>数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p>	<p>知識・理解 技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>関心・意欲・態度</p>
	知的障害のある児童生徒のための教科	算数／数学(知)	小学部	中学部	高等部
	目標	<p>具体的な操作などの活動を通して、</p> <p>数量や図形などに関する<u>初歩的な</u>ことを理解し、</p> <p style="text-align: center;">※</p> <p>※それらを扱う能力と態度を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">※</p> <p><u>日常生活</u>に必要な数量や図形などに関する<u>初歩的な</u>事柄についての理解を深め、</p> <p style="text-align: center;">※</p> <p>※それらを扱う能力と態度を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">※</p> <p><u>生活</u>に必要な数量や図形などに関する理解を深め、</p> <p style="text-align: center;">※</p> <p>それらを活用する能力と態度を育てる。</p>	<p>知識・理解 技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>関心・意欲・態度</p>

(参考) 幼稚園教育要領における領域のねらい

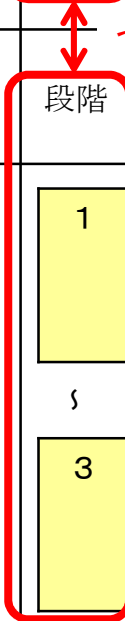
(例) 幼稚園、領域「環境」

幼稚園	領域	意義	ねらい
ねらい	環境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

各学年等の目標の比較

(例) 小学校 算数	学年	内容の領域	目標
目標	1	A 数と計算 B 量と測定 C 図形 D 数量関係	(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。 (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。 (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。
	5		
	6	略	略
小学部 算数 (知)	段階	内容構成	目標
目標	1	(1) 数量の基礎 (2) 量と測定 (3) 図形・数量関係	※
	5		
	3	(1) 数と計算 (2) 量と測定 (3) 図形・数量関係 (4) 実務	※

つながり



現行の教科における「内容」の示し方 から見た現状と課題

小学校等の各教科の各学年の内容

(例)算数・数学(高校は「数学 I」)

現行の学習指導要領に基づいた作成

目標(ねらい)

A数と式

高3
高2

高1

●数と集合(数と集合:実数、集合、式:式の展開と因数分解、不等式)

中3

●平方根(平方根の必要性和意味(有理数・無理数)、平方根を含む式の計算、平方根を用いること)
●式の展開と因数分解(単項式と多項式の乗法と除法の計算、簡単な式の展開や因数分解、文字を用いた式でとらえ説明すること)
●2次方程式(2次方程式の必要性和意味及びその解の意味、因数分解や平方完成して2次方程式を解くこと、解の公式を用いて2次方程式を解くこと、2次方程式を活用すること)

中2

●文字を用いた式の四則計算(簡単な整式の加減及び単項式の乗除の計算、文寧を用いた式で表す・読み取る、目的に応じた式変形)
●連立2元一次方程式(二元一次方程式の必要性和意味及びその解の意味、連立方程式とその解の意味、連立方程式を解くことと活用すること)

中1

●正の数・負の数(正の数と負の数の必要性和意味:数の集合と四則、正の数と負の数の四則計算の意味、正の数と負の数の四則計算、正の数と負の数を用いること)
●文字を用いた式(文字を用いることの必要性和意味、乗法と除法の表し方、一次式の加法と減法の計算、文字を用いた式に表すこと:不等式を用いた表現)
●一元一次方程式(方程式の必要性和意味及びその解の意味、等式の性質と方程式の解き方、1次方程式を解くことと活用すること:比例式)

A数と計算

小6

●分数の計算(分数の乗・除(分数・小数の混合計算など)、●小数や分数の四則計算の定着と活用)

小5

●整数の性質(偶数と奇数、約数と倍数、素数)、●整数と小数の記数法、●小数の計算(小数の乗・除(1/10、1/100の位など)、●分数の計算(異分母分数(真分数、仮分数)の加・減など、●分数の乗・除(分数×整数、分数÷整数)

小4

●整数の表し方(億、長の単位など)、●およその数(概数、四捨五入、四則計算の結果の見積もり)、●整数の除数(2位数などによる除法)、●整数の四則計算の定着と活用、●小数の計算(小数の加・減1/10、1/100の位など)、●小数の乗・除(小数×整数、小数÷整数)、●分数の計算(同分母分数(真分数、仮分数)の加・減など)、●そろばん(加・減)

小3

●整数の表し方(万の単位、1億など)、●整数の加・減(3位数や4位数の加・減など)、●整数の乗法(2位数や3位週の乗法、3位数×2位数など、●整数の除法(1位数による簡単な除法、商が1位数や2位数)、●小数(小数の意味の表し方、小数(1/10の位)の加・減)、●分数(分数の意味の表し方、簡単な分数の加・減)、●そろばん(数の表し方と加・減)

小2

●整数などの表し方(3位数、4位数、1万、簡単な分数(1/2,1/4など)、●整数の加・減(2位数の加・減、簡単な3位数の加・減)など、●整数の乗法(乗法九九、簡単な2位数の乗法など)

小1

●整数の意味と表し方(2位数、簡単な3位数など)、●整数の加・減(1位数の加・減、簡単な2位数の加・減)

(8)身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」

幼稚園

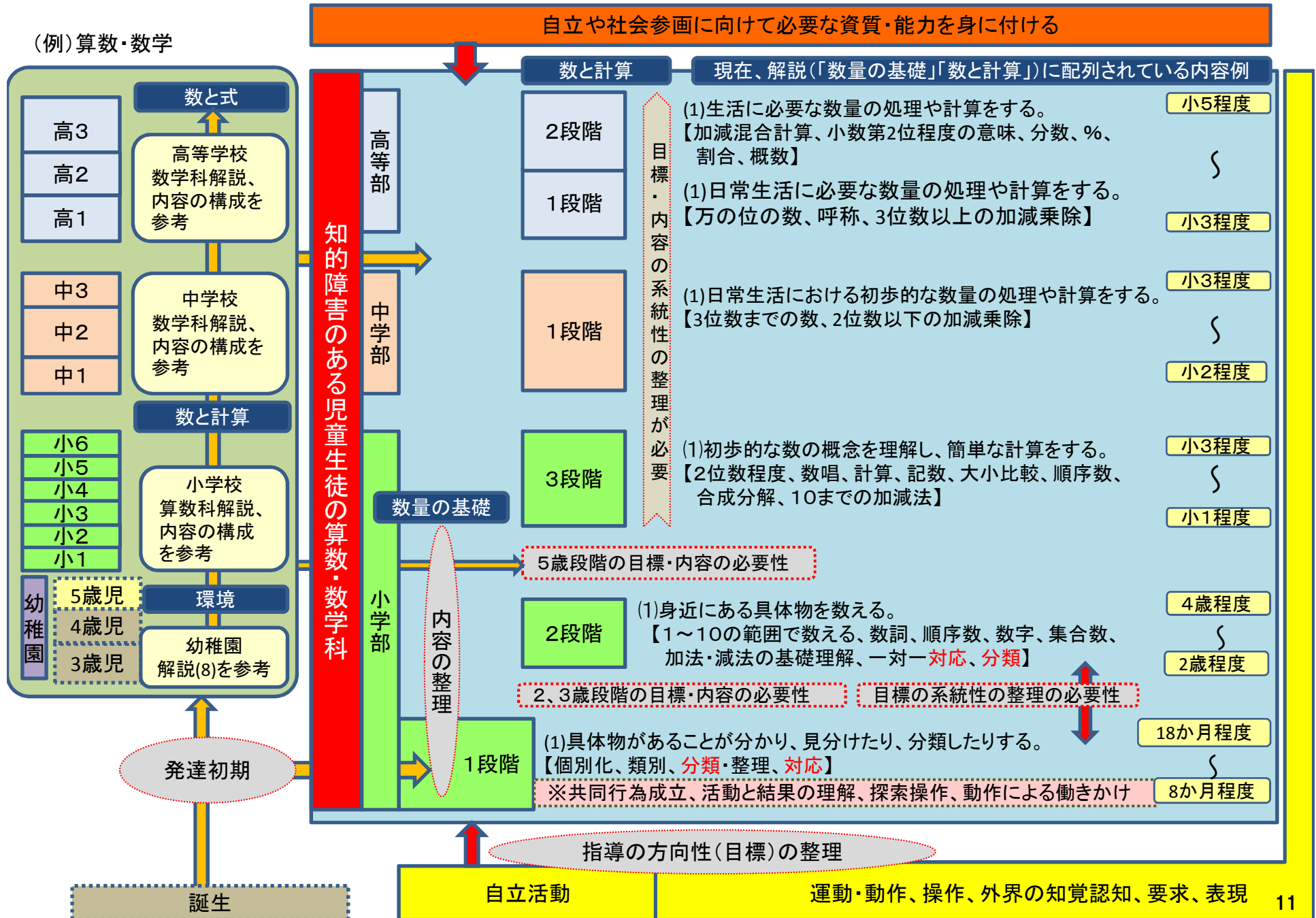
●(内容)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。

(参考) 幼稚園教育要領における記述 (抜粋)

(例) 領域「環境」

内容例	解説 (抜粋)
<p>(8) <u>日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</u></p>	<p>幼児は日常生活の中で、<u>人数や事物を数えたり、量を比べたり、また、様々な形に接したり</u>することを体験している。教師はこのような体験を幼児がより豊かにもつことができるようにして幼児が<u>生き生きと数量や図形などに親しむことができるように</u>環境を工夫し、援助していく必要がある。</p> <p>数量や図形についての知識だけを単に教えるのではなく、生活の中で幼児が必要感を感じて数えたり、<u>量を比べたり、様々な形を組み合わせ</u>て遊んだり、積み木やボールなどの様々な<u>立体に触れたり</u>するなど、多様な経験を積み重ねながら<u>数量や図形などに関心をもつように</u>することが大切である。</p> <p>幼児は、例えば、皆が席に座った際に、<u>誰も座っていないいすを数えて休みの幼児を確認したり、ごっこ遊びで友達が持っている棒より長い物を持ちたくて作ったり</u>するなど、日常的に知らず知らずのうちに<u>数や量に触れて生活している</u>。また、教師や友達と一緒に<u>グループの人数を確認してからおやつを配ったり、どちらの砂山が高いかを比べたり</u>するなど、<u>意識して数量を用いる</u>こともある。このような体験を通して、教師や友達との日常的なやり取りをしながら、<u>数量に親しむ経験を多様に重ねていく</u>ことが大切である。さらに、花びらや葉、昆虫や魚の体形など、幼児の身の回りの自然界は多様な形に満ちている。幼児がこのような多様な形に触れたり、教師が注目を促すことを通して、<u>様々な形に気付いたりして、次第に図形に関心をもつようになる</u>ことが大切である。</p> <p>このように、日常生活の中で<u>数えたり、量ったり</u>することの便利さと必要感に幼児が次第に<u>気付く</u>、また、<u>様々な図形に関心をもつ</u>てかかわろうとすることができるよう援助していくことが重要である。</p>

小学校等の各教科の各学年等の内容の配当比較①



現行の教科における「評価の観点と趣旨」 の示し方から見た現状と課題

各教科の評価の観点と趣旨の比較

現行の学習指導要領に基づく学習評価の観点で作成

観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
小学校	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常生活の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理に関わる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。
中学校	数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的に捉えて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などに数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。
観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
高等学校	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
教科(知)段階／観点	各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況を記述(学習評価の観点は示していない。)			

今後改善・充実

小学校等の教科の改訂を踏まえる。

学年別の評価の観点と趣旨の比較①

(例) 小学校、算数

学年 ／ 観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
1年	数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
2年	数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、長さや体積などを測定したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味、長さや体積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
3年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をした整数などの計算をした測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
4年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数、小数及び分数の計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、面積を求めたり調べるなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
5年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	小数や分数の計算をしたり、図形の内積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、小数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
6年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	分数の計算をしたり、図形の内積や体積を求めたり、図形を構成したり、面積を求めたり、図形を構成したり、表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の意味、分数の公式、速さの意味、数量の関係などについて理解している。
教科(知) 段階 ／ 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
※	各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況を記述 (学習評価の観点は示していない。)			

今後、改善・充実

小学校等の教科の改訂を踏まえる。

学年別の評価の観点と趣旨の比較②

(例) 中学校、数学

学年／ 観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
1年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	正の数と負の数の四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、基本的な図形の作図や図形の計量をしたり、関数関係を的確に表現したり、資料を整理したりするなど、技能を身に付けている。	正の数と負の数、文字を用いることの必要性和意味、一元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、関数関係や比例・反比例、ヒストグラムや代表値などを理解し、知識を身に付けている。
2年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。	文字式のはたらき、二元一次方程式、平面図形の性質、図形の証明の意味及びその方法、一次関数の特徴、確率の必要性などを理解し、知識を身に付けている。
3年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、標本を抽出したりするなど、技能を身に付けている。	数の平方根の必要性和意味、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や円周角と中心角の関係の意味、三平方の定理の意味、関数 $y=ax^2+bx+c$ の性質の意味、標本調査の必要性などを理解し、知識を身に付けている。
教科 (知) 段階 ／観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
※	各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況を記述 (学習評価の観点は示していない。)			

今後、改善・充実
 ↓
 小学校等の教科の改訂を踏まえる。

学年別の評価の観点と趣旨の比較③

(例)高等学校、数学

学年／観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
1年 (数Ⅰ)	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析における基本的な概念，原理・法則などを理解し，知識を身に付けている。
2年 (数Ⅱ)	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを理解し，知識を身に付けている。
3年 (数Ⅲ)	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
教科(知) 段階／観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
※	各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況を記述 (学習評価の観点は示していない。)			

今後、改善・充実

小学校等の教科の改訂を踏まえる。

「論点整理」を踏まえた各教科の目標等の改善の手続きから見た現状と課題

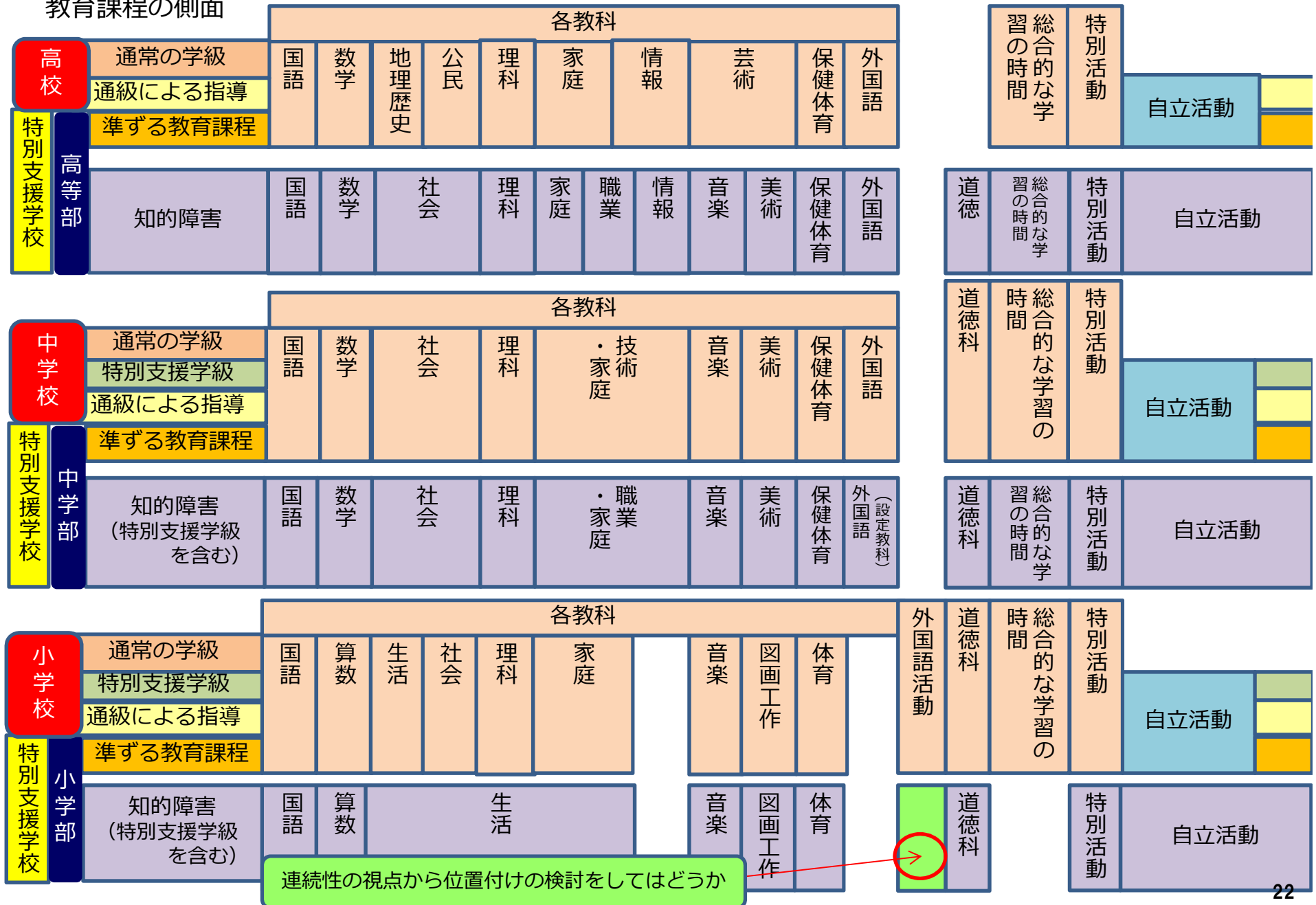
育成すべき資質・能力を踏まえた教科の目標等の改善の手続き

各教科	幼稚園、小・中学校、高等学校に準ずる改訂	特別支援学校（知的）	育成すべき資質・能力の3つの柱等		
幼・小・中・高等学校を通じた教科等のイメージ（案）	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> ◎ ① ② ③ ● </div>	幼稚園、小・中学校、高等学校に準ずる改訂	①知識や技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等 ●資質・能力の育成のために重視すべき学習過程の例		
資質・能力の3つの柱に沿った、小・中・高等学校を通じて教科等において育成すべき資質・能力の整理（案）	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> ① ② ③ </div>		①知識や技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等		
教科等における問題発見・解決のプロセスと育成すべき資質・能力	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> ● </div>		●資質・能力の育成のために重視すべき学習過程の例		
教科等における見方や考え方（案）	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> 小 中 高 </div>		◆深い学び		
教科の目標	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> ①+②+③ </div>		①知識や技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等		
学年の領域に対応した目標 ／領域に対応した段階	(1) (数と計算) 目標 (2) (量と測定) 目標 (3) (図形) 目標 (4) (数量関係) 目標	領域に対応した段階の目標を検討してはどうか	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 領域 A:数と計算 B:量と測定 C:図形 D:数量関係 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 内容構成 (1)数量の基礎及び数と計算 (2)量と測定 (3)図形・数量関係 (4)実務 </td> </tr> </table>	領域 A:数と計算 B:量と測定 C:図形 D:数量関係	内容構成 (1)数量の基礎及び数と計算 (2)量と測定 (3)図形・数量関係 (4)実務
領域 A:数と計算 B:量と測定 C:図形 D:数量関係	内容構成 (1)数量の基礎及び数と計算 (2)量と測定 (3)図形・数量関係 (4)実務				
各領域の内容 ／領域に対応した各段階の内容	A (数と計算) B (量と測定) C (図形) D (数量関係)	領域に対応した段階の目標の検討を踏まえ内容の整理をしてはどうか	小・中学校等の改善を踏まえ、構成や表現を整理してはどうか		
評価の在り方	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> ① ② ③ </div>	準ずる改訂	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度		

小学校等の各教科等の枠組みと知的障害のある児童生徒に対する各教科等の枠組みから見た現状と課題

障害のある児童生徒に対する教育課程等の円滑な接続

教育課程の側面



連続性の視点から位置付けの検討をしてはどうか



現行の「解説」を踏まえた教育課程編成の 手続きから見た現状と課題

学習指導要領に基づくカリキュラム・マネジメントの視点

現行の特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)より作成

(例)

第3章 知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科

第1節 各教科の基本的な考え方

1 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の考え方

- (1) 各教科の構成と履修
- (2) 段階による各部の内容構成

2 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における指導の特徴

- (1) 知的障害のある児童生徒の学習上の特徴等
- (2) 各教科等を合わせて指導を行う場合
- (3) 教科別に指導を行う場合
- (4) 領域別に指導を行う場合

第2節 各教科に係る改善の要点

- 1 総則(第1章)内容等の取扱いに関する共通的事項(第2節第2)
- 2 各教科(第2章)

第3節 小学部の各教科

「教育課程」と「指導計画」の接続（仮案）

学習指導要領を踏まえて「教育内容」を明確にする段階（核となるカリキュラムの明確化）

達成を目指して

学校教育目標

- ・ 育成すべき資質・能力
- ・ めざす児童生徒像の明確化
- ・ 卒業までに身に付けてほしい力の検討

何を

学習指導要領に示す各教科等の目標・内容等

① 指導内容の選択

- ・ 基礎的・基本的な指導内容の明確化
- ・ 指導内容の精選・重点を置くべき指導内容の明確化

② 指導内容の組織

- ・ 発展的、系統的に指導内容を配列・組織
- ・ 各教科等間の指導内容の相互の関連

③ 授業時数の配当

- ・ 各教科等の年間授業時数を定める
- ・ 学期、月、週ごとの各教科等の授業時数を定める
- ・ 各教科等の授業の1単位時間を適切に定める

教育内容等を踏まえて「指導計画」を作成する段階（実施するカリキュラムの作成）

どのように

指導の形態ごとに指導計画の作成

① 指導の形態の選択

各教科等別指導、各教科を合わせた指導、各教科等を合わせた指導

② 指導内容の組織、時数の配分

年間計画、学期計画、月・週計画、単元（題材）計画等

③ 時間割の編成

学習グループ、指導体制の検討

④ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成

教育課程の総体的構造の可視化 (例)

◆カリキュラム・マネジメント

◆社会に開かれた教育課程

◆育成すべき資質・能力

◆教育課程の円滑な接続

学習指導要領から教育内容を明確にする段階

学校教育目標

卒業後の視点から学校教育を考える

めざす児童生徒像

卒業までに身に付けてほしい力

- ・皆で共有するめざす姿
- ・身に付けてほしい力

各学部教育目標

各学部教育課程編成

各教科	道	外	総	特	自
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 指導内容の選択 ➢ 指導内容を組織 ➢ 授業時数を配当 				

学習指導要領に基づき、身に付けてほしい力を育むための指導内容等の検討

個別の教育支援計画

- ・めざすAさんの姿
- ・Aさんに育てたい力

指導計画を作成する段階

◆学びの連続性

指導計画作成(指導の形態、年間計画、時数配分、時間割等)

評価

各教科等の実態把握

学びの履歴

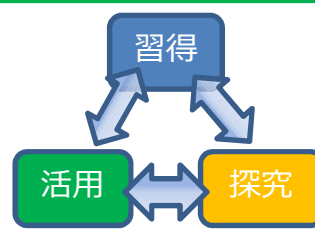
各教科等の目標の明確化

指導・学習方法の明確化

指導内容の精選・指導の重点化

- アクティブ・ラーニング
- ・深い学び
- ・対話的な学び
- ・主体的な学び

各教科等の内容の明確化



育成すべき資質・能力の三つ柱に沿った学習評価の整理

<ul style="list-style-type: none"> ➢ 知識・技能 (何を知っているか、何ができるか) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 思考・判断・表現 (知っていること、できることをどう使うか) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 主体的に学習に取り組む態度 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
---	--	---

評価方法の明確化

◆アクティブ・ラーニング

本時の授業

評価

学期ごとの達成状況